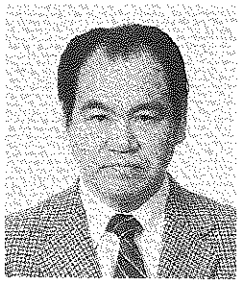
第2回
日本集団災害医療研究会
プログラム・抄録集

Second Annual Meeting of Japanese Association for Disaster Medicine

会長: 金子正光
後援: 北海道 北海道医師会 札幌市医師会 他
会期: 平成8年11月12日～13日
会場: 札幌医科大学講堂 他
事務局: 札幌医科大学医学部救急集中治療部

ご挨拶



第２回日本集団災害医療研究会　会長
札幌医科大学医学部救急集中治療部　部長　金子正光

第２回日本災害医療研究会を開催するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。阪神淡路大震災の１周年にあたる本年１月17日に第１回研究会を大阪府立千里救命救急センター　太田宗夫所長が主催されて大阪で行われました。本来であれば来年に入ってから行うべきなのでしょうが、北海道の冬は天候が不安定であり、万が一皆様に交通その他でご迷惑をおかけしてはと思いこの時期を選ばせていただきました。ご了承いただきたいと存じます。

今回は招待講演とし Dr. R.V. Aghababian (Professor of Emergency Medicine, Univ. of Massachusetts)に“Predicting the Injuries and Illness That Result from Disaster.”と、また、Mr. Leo Bosner (FEMA)に “Key Activities of the U.S. Federal Emergency Management Agency(FEMA)”と、この二人にお願いし、米国における災害医療の実際と国際災害医療の在り方について講演をいただき、また特別報告として「1995年サハリン大地震での災害医療活動」を Dr. A.G. Rykov (Khabarovsk, Russia)に、International Assistance Network and Medical Service for Disaster Relief を Dr. C.V. Goyet (Pan American Health Organization)にお願いしております。更にシンポジウムは「集団災害として考える O-157」と「集団災害と情報、通信」の２題を企画させていただきました。また一般演題が28題、JICA Country Report 11題が予定されております。全演題を１会場でということで多少窮屈なプログラムになってしまいましたことをお許しいただきたいと存じます。

今までの日本では災害時の医療はどちらかと言えば一歩後からついていく体制にありましたが、阪神淡路大震災を契機にパニック状態にある負傷者に情報や搬送も含めて、如何に早く質の高い医療を提供するかということを、医療の側はもとより行政も常日頃から体制を整えて、国際的にも恥ずかしくない活動を行いたいものであります。その意味からも本研究会は様々な分野の専門家が集まり、また海外からの参加も得て意見の交換が出来ることは誠に意義深いことと存じます。ご参加の皆様の熱心なご討議をお願い申し上げます。

第2回日本集団災害医療研究会ご案内

会長

金子正光　札幌医科大学医学部救急集中治療部

会期

平成8年11月11日(月)	幹事会・常任幹事会
平成8年11月12日(火)	学術集会・懇親会
平成8年11月13日(水)	学術集会・総会議事

開催地

北海道札幌市

会場

札幌医科大学　講堂(札幌市中央区南1条西16丁目 TEL(011)611-2111
札幌市営地下鉄東西線「西18丁目」駅下車、5番出口から徒歩約2分。

タイムテーブル

11月12日（火）

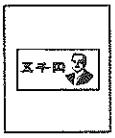
8:50	会長挨拶
9:00	一般演題Ⅰ 防災訓練
9:55	一般演題Ⅱ 阪神大震災
10:45	招待講演Ⅰ R. V. Aghababian
11:45	特別講演Ⅰ
12:25	休憩
13:15	シンポジウムⅠ O-157感染症
14:50	一般演題Ⅲ 設備管理の諸問題
15:40	招待講演Ⅱ Mr. Bosner
16:40	一般演題Ⅳ 航空機事故特殊災害
17:30	

11月13日（水）

8:50	一般演題Ⅴ 災害心理・看護
9:30	一般演題Ⅵ 国際協力・搬送
10:10	国際協力事業団 Country Report
12:10	休憩
13:00	総会議事
13:20	特別講演Ⅱ Claude de Goyet
14:10	シンポジウムⅡ 災害医療と 情報通信
16:10	

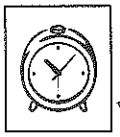
※11月12日終了後懇親会

参加者へのご案内



会場費

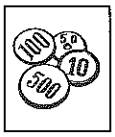
会場費　5,000 円を受付にてお支払いください。引き換えにネームカードを差し上げますので、見やすい位置につけてご入場ください。また、当日は午前 8 時 10 分より受付を開始致します。



スライド受付

	一般演題	シンポジウム
スライド枚数	10 枚まで	制限ありません
発表時間	7 分	12 分
討論時間	3 分	座長の指示に従ってください

スライドは 35mm 版に限ります。発表時間の 30 分前までに提出頂きますようご協力下さい。また、当該セッション終了後、スライド受付でスライドをお受け取り下さい。
非常に時間がタイトに組まれております。**時間厳守にご協力**お願いいたします。制限時間の 1 分前に緑ランプ、制限時間に赤ランプが点灯します。



年会費

新規入会、継続会費の受付を会場内で行っておりますので、ご利用ください。また、筆頭演者のかたは入会をお願いいたします。また、入会についてのお問い合わせは下記の事務局までお願いいたします。インターネット利用可能の方は下記ホームページも御参照下さい。

事務局

大阪府吹田市津雲台１－１
大阪府立千里救命救急センター内
日本集団災害医療研究会事務局
TEL 06-834-5131 / FAX 06-872-1846
ホームページアドレス http://www.iijnet.or.jp/JADM/JADM.htm

駐車場

札幌医大病院の駐車場は**利用できません。**タクシーか地下鉄をご利用ください。

クローク

お荷物はセミナー室に設置したクロークにお預け下さい。貴重品はお預かり出来ませんので御自身でお持ち下さい。また、学術集会終了後は速やかにお荷物をお受け取り下さい。

ドリンクサービス

１階ロビーで飲み物のサービスを行いますのでご利用ください。

旅行案内

１階ロビーに北海道ツアーシステムの臨時カウンターを設置しますのでご利用ください。

会場への交通について

新千歳空港から

- 新千歳空港地下の JR 駅より 15 分毎発車の JR 北海道の快速「エアポート号」に乗車し、「新札幌駅」下車(所要約 30 分)。地下鉄東西線「琴似行き」に乗り換え、「西 18 丁目」で下車(所要約 24 分)。または、そのまま JR 札幌駅まで「エアポート号」に乗車して、JR 札幌駅からは下記。
- 12 分毎発車の高速バス「大谷地」行きに乗車し、終点「大谷地」で下車(所要約 30 分)、地下鉄東西線「琴似行き」に乗り換え、「西 18 丁目」で下車、所要約 19 分。
- タクシーで約 55 分、18,000～20,000 円程度。

JR札幌駅から

- 地下鉄南北線「真駒内行き」に乗車し、つぎの「大通」で東西線「琴似行き」に乗り換え、2 つ目の「西 18 丁目」下車。
- タクシーで約 10 分、1,000 円程度。

役員へのご案内

常任幹事会、幹事会を下記の日程で行いますので、ご参集下さい。

常任幹事会

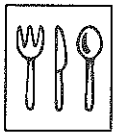
11月11日 (月) 14時～16時 **札幌グランドホテル** 17階旭の間

幹事会

11月11日 (月) 16時～18時 **札幌グランドホテル** 17階白雲の間

札幌グランドホテル　札幌市中央区北1条西4丁目 TEL 011-261-3311

懇親会



懇親会は１１月１２日の学術集会終了後、**札幌プリンスホテル**　2 階プリンスホールにて行われます。会場より送迎のバスが出ますのでスタッフの誘導にしたがって御乗車下さい。

札幌プリンスホテル　札幌市中央区南2条西11丁目　TEL (011)241-1111

総会議事

総会議事は 13日 13:00～13:20　1階講堂にて行いますので御参集下さい。

Country report について

これは、JICA(国際協力事業団)が行う、「救急・大災害医療セミナー」に来日している各国の災害医療のリーダー11 名が、各国の災害対策の現状につき英語(日本語同時通訳つき)で発表するものです。来場者各位のご協力をお願い申し上げます。また、内容については当日 JICA が配布する資料をご覧ください。

通訳

Country Report, 特別講演Ⅱには同時通訳が入ります。レシーバーは会場入口で貸し出しております。**忘れずにお返し下さいますようお願いいたします。**レシーバーは十分個数を用意してありますが、万一不足の場合はご容赦ください。また、特別講演Ⅰはロシア語の逐次通訳となりますのでレシーバーの貸し出しは行いません。

機器展示

１階共用実習室で行います。

設営、撤収の時間が短く、ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

シンポジウム打ち合わせ

	場所	とき
シンポジウム 集団災害として考える O-157 感染症	臨床第一会議室 (3 階)	11 月 12 日 12:30～13:05
シンポジウム 災害医療と情報・通信	臨床第一会議室 (3 階)	11 月 13 日 12:15～13:00

シンポジストの皆様には御多忙とは存じますが、必ずご参加くださいますようお願い申し上げます。なお、シンポジストの方には昼食を用意致しております。

ビデオ展示

ロビーで防災訓練などのビデオを随時上映致します。御自由に Discussion 下さい。

プログラム(11月12日)

会長挨拶 8:50-9:00

第2回日本集団災害医療研究会会長
札幌医科大学医学部救急集中治療部教授　金子正光

一般演題I　防災訓練 9:00-9:55

座長　辺見　弘(国立病院東京災害医療センター)
特別発言　饗庭庄一(前橋赤十字病院)

1. 防災関係機関(消防・警察・自衛隊)合同訓練について
   札幌市消防局

中川和彦

2. 当院災害マニュアルと災害訓練結果の検討
   国立病院東京災害医療センター　臨床研究部

友保洋三、原口義座、植田利貞、辺見　弘、本間正人、井上潤一、加藤　宏、雅楽川聡、大友康裕、小澤薫正、西　法正

3. 横須賀市における災害救護訓練
   横須賀共済病院　外科、国際災害研究会[*1]、横須賀市医師会[*2]

山口孝治、浅利　靖[*1]、金田正樹[*1]、金成正人[*2]、原　　上[*2]

4. 医療施設などにおける大規模災害対策訓練についての一提言　ー自衛隊の訓練ノウハウをモデルとしてー
   防衛庁防衛研究所

小村　隆史

5. 災害訓練のあり方について　ーマレーシアと日本の災害訓練比較ー
   川口市立医療センター[*1]、日本医科大学救急医学教室[*2]、東京大学[*3]、大阪市立総合医療センター[*4]、大阪府立千里救命救急センター[*5]

二宮宣文[*1*2]、前川和彦[*3]、鵜飼卓[*4]、甲斐達朗[*5]、山本保博[*2]

一般演題II　阪神大震災 9:55-10:45

座長　鵜飼　卓(大阪市立総合医療センター)

6. 大震災のその後・震災関連死について～監察医の立場から
   神戸大学医学部法医学教室[*1]、兵庫県監察医務室[*2]

上野易弘[*1*2]、中川加奈子[*1]、浅野水辺[*1]、主田英之[*1*2]、坂部篤子[*1]、足立順子[*1]

7. 阪神・淡路大震災後に見られた医療需要の経時的変化
兵庫医科大学　救急・災害医学

吉永和正、丸川征四郎、切田　学、山村治史、尾崎孝平、黒田誠一郎、大石泰男、美崎　晋、細原勝士

8. 阪神・淡路大震災犠牲者の死因分析　ー監察医からの報告ー
兵庫県監察医務室[*1]、神戸大学医学部法医学教室[*2]、滋賀医科大学法医学教室[*3]、兵庫医科大学法医学教室[*4]、香川医科大学法医学教室[*5]、三重大学医学部法医学教室[*6]、横浜市立大学医学部法医学教室[*7]、奈良医科大学医学部法医学教室[*8]

上野易弘[*1*2]、西村明儒[*1*3]、龍野嘉紹[*1*2]、菱田繁[*1*4]、井尻巌[*1*5]、福永龍繁[*1*6]、種子島章男[*1*6]、藤原敏[*1*7]、羽竹勝彦[*1*8]、溝井泰彦[*2]

9. 阪神・淡路大震災の救助活動の経験と提言
福島県立医科大学麻酔科学講座、会津中央病院麻酔科[*1]、太田西ノ内病院救命救急センター[*2]、松村総合病院麻酔科[*3]

奥秋　晟、田勢長一郎、岩間　裕[*1]、野崎洋文[*2]、篠原一彰[*2]、松本昭憲[*3]

10. 大災害がもたらす医薬品流通への影響(阪神大震災によって得た教訓より)
大阪府立千里救命救急センター

長谷川富美雄、澤田佳子、藤井園子、甲斐達郎、太田宗夫

招待講演I 10:45-11:45

司会 太田宗夫(大阪府立千里救命救急センター)

Predicting the Injuries and Illness That Result from Disaster.
Richard V. Aghababian, M.D., F.A.C.E.P.
Professor of Medicine
Chairman, Department of Emergency Medicine
University of Massachusetts Medical Center

特別講演I 11:45-12:25

司会 原田吉雄(札幌東徳洲会病院)

1995 年サハリン大地震での災害医療活動
Alexandr G. Rykov.
Chief, Orthopedic Department, Khabarovsk Railroad Hospital., Russia

休憩 12:25-13:15

シンポジウムI　集団災害として考える O-157 感染 13:15-14:50

司会　奥秋　晟(福島県立医科大学麻酔科学)

基調講演 藤井暢弘 (札幌医科大学医学部微生物学講座教授)

11. 「O-157」感染患者の看護を体験して

大阪市立大学医学部附属病院 4 階救急病棟

宮東美奈子、宮本 摂、米田眞智子

12. 集団災害としてみた腸管出血性病原性大腸菌 O-157 食中毒

大阪市立総合医療センター救命救急センター、同小児感染症科[*1]、大阪府救急医療情報センター[*2]、大阪府医師会[*3]

松尾吉郎、鵜飼　卓、月岡一馬、鍛冶有登、吉村高尚、重本達弘、韓　正訓、林下浩士、宮市功典、金　澤源、井原歳夫、坂手洋二、外川正生[*1]、塩見正司[*1]、鶴原常雄[*2]、大北　昭[*3]

13. O-157 による堺市集団感染の際の当院の対応と問題点

大阪市立大学医学部麻酔・集中治療医学教室、同救急部[*1]、同集中治療部[*2]

栗田　聡、新藤光郎[*1]、西　信一[*2]、行岡秀和[*1]、浅田　章

14. 腸管出血性大腸菌による小児集団発生についての検討

近畿大学医学部救命救急センター、同小児科[*1]、人工透析部[*2]

坂田育弘、高橋　均、吉岡加寿夫[*1]、今田聰雄[*2]

追加発言　北海道における O-157 感染と北海道の対応について

北海道保健環境部長

傳法公磨

一般演題III　病院設備・管理の諸問題 14:50-15:40

座長　浅井康文(札幌医科大学医学部救急集中治療部)

15. ノルウェー製フィールドホスピタルシステムの使用経験

聖マリアンナ医科大学東横病院　整形外科

金田正樹

16. マサチューセッツ州立大学附属病院における災害医療への取り組み

University of Massachusetts Medical Center, Department of Emergency Medicine、札幌医科大学医学部救急集中治療部*

丹野克俊，Lucy Gans，Richard V. Aghababian，金子正光*

17. 北海道の地震災害における医療施設の被害と救急医療の問題点

札幌市立高等専門学校

村上ひとみ

18. 大規模災害医療における大学附属病院の果たすべき役割
神戸大学医学部附属病院救急部

中山伸一、石井　昇

19. 災害時における放射線撮影システムの工夫
国立病院東京災害医療センター救命救急センター、診療放射線技師[*1]、放射線科[*2]、臨床研究部[*3]

大友康裕、加藤　宏、井上潤一、本間正人、原口義座、辺見弘、藤本幸宏[*1]、小島迪子[*1]、倉本憲明[*2]、友保洋三[*3]

招待講演II 15:40-16:40

座長　山本保博(日本医科大学救急医学)

Key Activities of the U.S. Federal Emergency Management Agency(FEMA)

Leo V. Bosner, M.S.W.

Program Specialist, Response and Recovery Directorate

Federal Emergency Management Agency

一般演題IV　航空機事故・特殊災害 16:40-17:30

座長　甲斐達郎(大阪府立千里救命救急センター)

20. ダウンバーストによる被害の1事例
筑波メディカルセンター病院救命救急部

河野元嗣、大橋教良

21. 放射線災害時の医療のポイント
三菱重工神戸病院外科

衣笠達也、関本健一

22. ガルーダインドネシア航空機離陸時オーバーラン炎上事故における集団災害医療
福岡大学医学部救命救急医学講座

田中経一、岡本　育

23. 豊浜トンネル崩落事故における災害時医療派遣と問題点
札幌医科大学医学部救急集中治療部

佐々木盛、伊藤　靖、森　和久、奈良　理、坂野晶司、金子正光

24. ガルーダ・インドネシア航空機炎上事故　ー福岡徳洲会病院の救急診療活動ー
福岡徳洲会病院

岩尾憲夫、青木重憲、河野寛幸、木川和彦